第２５回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール

受賞者の業績概要

平成２８年３月

一般財団法人日本花普及センター

第２５回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール

表　　彰　　式

平成２８年3月２４日（木）１３：３０～
学士会館
東京都千代田区神田錦町３－２８

表　彰　式　次　第

１　開会あいさつ

２　審査講評
　　審査委員長　日本大学生物資源科学部　教授　腰岡政二

３　賞状授与
　　農林水産大臣賞　　２点
　　農林水産省生産局長　　２点
　　一般財団法人日本花普及センター会長賞　　３点

４　祝　辞

５　記念撮影

６　懇談会
　　表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第２５回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール　受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

萩原　幸一（はぎわら　こういち）
鉢物・花壇苗（ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、ゴーヤ、球根ネギ）
埼玉県児玉郡上里町

近藤　晴義（こんどう　はるよし）
鉢物・花苗（ガーデンバラ苗、ミニツルバラ）
愛知県稲沢市

【農林水産省生産局長賞】

佐藤　幸一（さとう　こういち）
佐藤　朝子（さとう　あさこ）
鉢物（シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネーション）
福島県須賀川市

平田　憲市郎（ひらた　けんいちろう）
平田　志緒梨（ひらた　しおり）
切花（カーネーション）
佐賀県唐津市

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部（代表者　鈴木　喜一）
（いわてふるさとのうきょうえんげいぶかいりんどうせんもんぶ）（すずき　きいち）
切花（リンドウ）
岩手県奥州市

有田　隆則（ありた　たかのり）
花壇苗（パンジー、ビオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ）
広島県東広島市

お花屋さん百花園有限会社　（おはなやさんひゃっかえんゆうげんがいしゃ）
代表　渡邊　徳昭（わたなべ　とくあき）
切花（キク）
長崎県雲仙市

第２５回花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール

審　　査　　講　　評

第２５回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げます。花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、６名の審査委員による提出された書類に基づく第１次審査と、現地での第２次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の２経営体が選ばれました。

埼玉県児玉郡上里町の萩原幸一氏は、鉢物・花壇用苗物の複合経営を行っています。就農前に愛知県内の観葉植物経営農家で１年間の研修を受け、昭和４４年に就農しました。消費動向の変化やオイルショックなどの厳しい局面に当たっても明確な経営理念の下、消費者ニーズを踏まえた商品開発や施設・労働力の効率的な利用を念頭に置いた計画的な生産を進め、平成８年には有限会社マルコウ種苗を設立することで安定した花き経営の実現に努めています。

ケイトウ栽培では、色違いの種子を鉢に直播きし、草丈を抑えた人目を引く鉢花に仕上げ、季節に応じた配色の商品として「ケイトウカシミヤデコレーション」を開発し、鉢物ケイトウとしての利用方法を全国に広めた功績は高く評価されています。同様に、施肥改善、温湿度管理によるポインセチア生産技術の開発、挿し穂の発根技術の改善によるポインセチア苗の安定生産技術の確立なども、産地としての評価向上に結び付いています。さらにはゴーヤや球根ネギなどを用いたオリジナル苗物生産に取り組み、新たなガーデニング商品を開発しています。

出荷・販売面では、消費者目線に立ったニーズを把握することで、オリジナル商品の開発などを進めています。

労働軽減・労務管理面では、作業効率と作業環境を考えたベンチや施設内室の配置を考えるとともに、休憩所やトイレも完備し、良好な就業環境作りを図っています。

環境保全面では、花き産業総合認証の環境認証を取得するとともにヒートポンプの導入による省エネルギー化にも取り組んでいます。

このように鉢物・花壇用苗物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去３年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

愛知県稲沢市の近藤晴義氏は、バラの花苗生産を営んでいます。昭和４６年に就農した当時はミカン苗木生産に従事していましたが、昭和５０年からミカンに加えて、花き類の鉢生産、出荷を始めました。平成２年からはバラ苗木鉢物専業となりましたが、平成１０年に現在のミニツルバラとガーデンバラ苗生産へ転換しました。平成２３年には本人夫婦と後継者夫婦の４者間で家族経営協定を締結し、経営方針、経営目標を明確にすることで「夢とゆとりのある農業の実現」を目指しています。

栽培面では、遮光設備を利用した直挿し栽培技術の改善に取り組むとともに、品種の生態特性や、頂芽優勢などの生理的特性を考慮した仕立てをすることで、商品を正確かつ迅速に作り上げることが出来、自園のブランド化、高品質化に成功しているといえます。また、ミニツルバラ鉢物生産では、夏の高温期に穂木をポットに直挿しすることが多いため、製品化率が低くなる問題がありましたが、遮光設備を利用することで直挿し栽培技術の改善に取り組みました。

出荷・販売面では、実需者との情報を密にすること、仕立てに変化をもたせることなどで、予約相対取引に信頼性を得ています。

雇用管理面では、トラクタに掘取機を装着して作業する方法の導入や施設内での鉢移動などの作業動線の考慮などにより、労働負担を大幅に軽減しました。

環境保全面では、病気に強い品種の選定や矮性種の選定など、農薬に頼らない環境に配慮した栽培を行っています。

海外出荷への取り組みについても、ここ数年間に渡り香港での見本市に参加し、海外バイヤーと商談を行うなど国際化対応を考慮した経営をしています。

また、新規就農者等の研修を受け入れるなど、次代の担い手の育成についても積極的な活動をしています。

このように、花苗生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、過去３年間の出荷数量、経営収支とも安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の２経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

福島県須賀川市の佐藤幸一・朝子ご夫妻は鉢物生産を営んでいます。就農当初の果樹栽培から、昭和４０年代後半に現在の施設花き栽培へと経営転換しました。計画的に栽培規模や品目の拡大を図りながら、平成２年には有限会社佐藤園芸を設立し、雇用労力を有効に活用した企業的経営の実践により、経営の安定化を図っています。栽培面では、土壌の蒸気消毒と薬剤散布を実行するとともに、鉢花に抵抗力をつけるための用土作りにこだわり、栄養診断を実施することで追肥や施肥配合割合を決定しています。それにより消費者の嗜好動向に即した品目の栽培技術を確立することで、出荷・販売面において長持ちする鉢花との評判を得ています。労働環境・雇用管理面では、働きやすい環境の整備、作業工程の見直し等による

労働時間の短縮に取り組んでいます。環境保全面では、分別・リサイクルの取組みや、重油暖房とヒートポンプの併用による化石燃料の削減に努めています。また幸一氏は、福島県鉢花生産者協議会のリーダーとして福島県の鉢花生産に尽力するとともに、福島県指導農業士として農家留学研修の受け入れも行っています。このように、鉢物経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

佐賀県唐津市の平田憲市郎・志緒梨ご夫妻はカーネーション切花生産を営んでいます。憲市郎氏は花き卸売市場に勤務後、平成１７年に就農し、緒梨氏は平成２０年の結婚を契に就農しました。「高品質であることは当たり前」との考えに立ち、市場リサーチ、顧客との対話を徹底して行う経営をしています。栽培面では、土壌改良材としてピートモスとゼオライトを用い、土壌分析結果に従った施肥管理を行っています。また、脇芽除去等の調整作業を徹底して行い、開花させてから収穫することで、品種本来の切花ボリュームを引き出しているほか、オリジナル品種の育成・販売を行っています。土壌消毒には蒸気消毒を用い、適切な施肥管理により土壌中の塩類集積も少なく、連作障害もありません。労働面では、生産・出荷調整をシンプル化、マニュアル化して誰でも出来る作業にすることで労働軽減を図っています。また、家族経営協定が締結されて、適切な労務管理がなされています。志緒梨氏のアイデアによる自園産カーネーションを原材料とした装飾加工品の開発、商品化で、６次化の一端も担っています。一方、憲市郎氏は、県農業青年クラブ連絡協議会長、青年農業士等を歴任し、若手生産者のリーダー的存在となっています。このように、切花経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

一般財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の３経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

岩手県奥州市の岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部は、昭和５２年の衣川農協りんどう部会の設立に始まり、岩手ふるさと農協園芸部会花卉専門部を経て、平成２４年に現在の名称となりました。現在は９０戸が加入し、オリジナル品種の開発・普及とその販売促進により、県内第３位の産地となっています。品種開発では、平成１２年に衣川りんどう振興協議会を設立することで、現在では、１２品種が登録され全出荷量の約３割を占めるに至っています。また、実需者や消費者ニーズに対応した品種の開発にも取り組んでいます。栽培面では、コンテナ栽培を取り入れることで連作障害を回避し、同一ハウスでの連続採花を可能にしています。このように、専門部会の活動を踏まえ、共選体制や技術の高位平準化が図られ、ブランド力も高まり、高品質・安定生産が実現し、部会員の経営が安定していることが評価されました。

広島県東広島市の有田隆則氏は花壇苗生産を営んでいます。昭和５０年の就農当時は、米、ミカン、バレイショ、葉タバコの栽培を行っていましたが、やがて花壇苗生産に移行し、規模拡大を進めながら有限会社有田園芸農場を経営しています。栽培面では、オリジナル培養

土のメーカー委託、灌水・施肥のワンタッチ変換、細霧冷房の導入、遮光資材の利用などによる省力・省エネルギー化を図る一方で、オリジナル商品の作出にも取り組んでいます。出荷・販売面では、消費者ニーズの把握に努めるとともに、量販店、メーカーとの契約栽培を拡大しつつ、小売店との業務提携をも視野に入れた活動をしています。地域社会活動面では、地元小学校やフェスティバルへの花苗提供などで、花いっぱい運動を進める一方で、花つくり教室、野菜つくり教室等の講師を務めています。このように、花壇苗経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展に貢献していることが評価されました。

長崎市雲仙市の渡邊徳昭氏を代表とする３戸の農業者は平成１８年にお花屋さん百花園有限会社を設立し、キク切花生産を営んでいます。優良品種の導入や大規模フェンロー型ハウス、LED などの先端技術を導入することで、環境保全や省エネルギー化に努め県内有数の大規模花き農家となっています。栽培面では、作付密度を減らすことで受光率を高め、上位規格品の割合を向上させています。品種は低温開花性品種を導入し、変温管理により燃油コスト削減を図っています。環境保全面では、良質堆肥による土作りと灌水施肥システムによる化学肥料低減への取り組みや、防虫ネットや紫外線カットフイルムの導入等の利用による耕種的防除技術の活用に取り組んでいます。代表の渡邊氏は、長崎県農業士会及び島原半島農業士会の会長などを歴任し、青年農業者育成指導能力の向上を図っています。このように、キク切花経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展に貢献していることが評価されました。

近年、わが国においては冷夏・暖冬を引き起こすとされるエルニーニョ現象による天候不順な状態が続いています。平成２７年は極端な冷夏にはならなかったものの、台風の発生数が多く各地で豪雨災害をもたらしました。そのような中で、今年度の審査会において推薦のあった多くの経営体が、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、オリジナル品種の育成、あるいはブランド品目の育成、新しい需要の開拓など力を注ぎ、着実な経営に腐心されていることに心強く感じました。
わが国の花き産業は、一昨年に成立した『花きの振興に関する法律』を後ろ盾にして堅調な発展を目指しているものの、農業を取り巻く環境と同様に依然厳しい状況にあります。このような中で、花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に向けて、今後とも一層のご尽力を賜りますようにお願いし、審査講評といたします。

平成２８年3月２４日
審査委員長
腰　岡　政　二

【農林水産大臣賞】

萩原　幸一　　埼玉県児玉郡上里町
鉢物・花壇苗（ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、ゴーヤ、球根ネギ）

萩原幸一氏は、就農前１年間、愛知県内の観葉植物経営農家で研修を受け、昭和４４年に就農。消費動向の変化やオイルショックなどの厳しい局面に当たっても明確な経営理念の下、消費者ニーズを踏まえた商品開発や施設、労働力の効率的な利用を念頭に置いた計画的な生産を進めるほか、信用力向上に向けた法人化「有限会社　マルコウ種苗」を行うなど安定した花き経営の実現を図っている。

栽培技術については、ケイトウを３．５号鉢に８０粒ほどの８色の種を直播きし、草丈を伸ばさず、かわいらしく人目を引く鉢花に仕上げ、季節に応じた配色ができる商品を開発。商品名を「ケイトウカシミヤデコレーション」と名付け、鉢物としての新しいケイトウの利用方法を全国に広めた功績は高く評価される。

このほかには、施肥改善、温湿度管理により丈夫で長持ちするポインセチア生産技術の開発、挿し穂の発根技術を高めるため用土の改善等によるポインセチア苗の安定生産技術の確立、新たなオリジナル苗物（上里アップルゴーヤ、上里縄文ねぎ）生産へのチャレンジ、インドア植物としてきれいに飾れる鉢用土の研究を行い、こうした品質向上のための技術は、所属団体を通じて地域の生産者にも普及し、産地の評価向上に結び付けている。

労働軽減や雇用管理等については、作業効率と作業環境を考え、施設内は台車が自由に往来できるコンクリート通路と施設の内外の気温等の変化に作業者が順応できるように中間室を設置している。また、プールベンチの改良、省力手灌水器具の考案など作業の効率向上に努めているほか、従業員の休憩所やトイレも完備し、良好な就業環境を心がけている。なお、作業上の改善課題については、従業員とともに改善を図っており、ケイトウの多粒多色播種機の開発にも従業員の参画が図られている。

環境負荷低減の鉢物生産については、平成２１年にＭＰＳ（花き産業総合認証）の中のＭＰＳ－ＡＢＣ（環境認証）を取得しており、省エネルギーについては、ヒートポンプを導入し燃料使用量の削減に取り組んでいる。

萩原氏は、平成１０年にはドイツの大規模施設花き生産、栽培技術について研修を受けている。地域では、次世代の花き生産者の担い手を育成すべく、県内に限らず意欲のある研修生は積極的に受け入れそのノウハウの継承に努めるほか、児玉郡市温室鉢物研究会の設立当初からのメンバーとして、若手会員の技術的アドバイザーとして活躍し、地域の鉢物生産レベルの向上と担い手育成に貢献し、また、地元小学校の花育活動にも協力するなど花き生産者のリーダーとしても役割を果たしている。

(左から萩原　幸一　萩原　秀典　萩原　みな子　下境　宏美)
ケイトウのハウスにて

ケイトウのハウス

上里縄文ねぎの出荷ケース

上里アップルゴーヤ苗

ケイトウ「カシミヤデコレーション」

【農林水産大臣賞】

近藤　晴義　　愛知県稲沢市
鉢物・花苗（ガーデンバラ苗、ミニツルバラ）

近藤晴義氏は、昭和４６年に就農し、家業のミカン苗木生産に従事していたが、昭和５０年からそれまで生産していた地掘苗木のミカンだけでなく、バラ、マツの木、フジの花等と多種多様な品目を売店で管理しやすいように鉢植えをして生産、出荷を始めた。順次栽培品目を取捨選択し、平成２年からバラ苗木鉢物専業となったが、平成１０年頃にかけては、景気低迷等によるバラ苗木鉢物の単価下落とバラ２年苗の掘上げ、ポット上げの作業が重労働であったため、新たな栽培品目を検討し始めた。平成１０年にミニツルバラの７号仕立てを試作したところ大変好評で高単価で取引され、これを契機にバラ苗木生産を縮小し、現在のミニツルバラとガーデンバラ苗生産へ転換していった。

ミニツルバラ鉢物を仕立てる場合、品種、株毎に枝の発生具合が異なるため、仕立て別に同じ荷姿にするのは非常に難しいが、近藤氏は、仕立て別に適する株を予め厳しく選定し、品種の特性、頂芽優勢の性質等を考慮しながら仕立てを行っている。このように事前に厳しく選別することで、各商品を正確かつ迅速に作り上げることが出来、自園のブランド化、高品質化に成功しているといえる。

また、ミニツルバラ鉢物生産では、夏の高温期にポットに穂木を直挿しすることが多いため、製品化率が低くなる問題があったが、近藤氏は、遮光設備を利用した直挿し栽培技術の改善に取り組んでおり、改善意欲が盛んである。

露地畑からの台木の掘上げ作業は重労働であったが、平成２０年にトラクタに掘取機を装着して作業する方法を導入し作業時間が５０％削減でき、施設内の鉢上げ及び出荷時の鉢の移動についても、作業動線を考慮しパート作業員の労働負担を大幅に軽減している。

環境保全の部面については、病気に強い品種を選定し、殺菌剤の散布回数を少なくしたり、ミニツルバラは、矮化剤を使用しなくても良い品種を選定するなど環境に配慮した栽培を行っている。

海外への出荷の取り組みについては、平成２１年５月の母の日にミニツルバラ６号鉢リング仕立てを香港で見本市展示、平成２３年及び２４年に香港で開催された見本市に参加し、海外のバイヤーと商談を行うなど海外にも関心を持っており国際化対応を考慮した経営がなされている。

なお、近藤氏は、平成２３年度に本人夫婦と後継者（尊寛氏）夫婦の４者間で家族経営協定を締結している。その中で、わが家のモットーに「夢とゆとりのある農業の実現」、経営目標に「効率よく収入アップを目指す」を掲げており、農業、生活部面の細部項目について４者の役割分担を決めるとともに、経営移譲時期についても明確に定めている。

（左から近藤　尊寛　近藤　晴義　近藤　令子）
ミニツルバラのハウスにて

従業員のみなさん

タワー仕立ての鉢植え

トレリス仕立ての鉢植え

リング仕立ての鉢植え

【農林水産省生産局長賞】

佐藤　幸一・佐藤　朝子　福島県須賀川市
鉢物（シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネーション）

佐藤幸一氏、佐藤朝子氏は、昭和４０年代後半に果樹栽培（リンゴ、ナシ、ブドウ）から現在の施設花き栽培へと経営転換し、これまで積極的に技術習得や販路開拓に努めてきた。両氏の栽培するシクラメン等の鉢物は、極めて高い品質を誇り、数々の花き品評会でトップの成績を収めるなど技術レベルは非常に高い。

また、計画的に栽培規模や品目の拡大を図りながら、雇用労力を有効に活用した企業的経営の実践により、経営の安定化を図っている。即ち、平成２年に適正な経営管理を目指して「有限会社佐藤園芸」として法人化し、税理士に会計処理を任せ、生産管理に専念できるようになり、品質が向上し収益性が高まっている。

栽培技術については、シクラメン栽培を始めた頃は、病害対策、特に、夏場の株落ちに悩まされた。そこで、県内外の同業者や普及所等の情報を入手して、土壌の蒸気消毒と薬剤散布を実行するとともに､鉢花の抵抗力をつけるため用土作りにはこだわりを持って研究した。また、資材の配合割合や施肥のタイミング、鉢花の花色や葉色、根張りの具合など作業日誌に記録し、更に、生産する年の気象予報から配合割合を調整して用土を作ってきた。平成１７年からは高品質なシクラメン栽培のため普及所の協力を得てＲＱフレックスによる栄養診断を実施して、栽培当年の追肥や次年度の配合割合を修正している。

出荷・販売に当たって特に工夫している点は、お客さんがどのような管理をしても長持ちする鉢花を作ることを目指して生産している。市場関係者から「花屋さんからシクラメンを買ったお客さんは、水やりだけでシーズンを楽しんでいる」と言うのを聞いて、水やりだけでも日持ちするシクラメンを作らないとリピーターになってもらえないと考えている。その結果、花屋さんから「佐藤園芸のラベルを持ってシクラメンを買いに来る」と言って注文が入るようになった。

労働環境や雇用管理等については、パート従業員に働きやすい職場環境の整備、労働時間の短縮、作業工程の見直し等を行っているが、これは、妻朝子氏の提案が大きい。

幸一氏は、平成４年に発足した「福島県鉢花生産者協議会」の理事を発足当初から平成２０年まで務め、その後、副会長、会長を歴任し福島県の鉢花生産に尽力した。また、全国農村青少年教育振興会の研修生、福島県指導農業士として県内外のシクラメン栽培を希望する青年や福島県農業短期大学校の学生約１２０名の農家留学研修の受け入れを行っている。また、平成１２年から農林水産省の統計調査員（花き）として花きに関する情報提供を行っている。今後の経営発展と後継者への経営継承、パートの世代交代も新たな課題としている。

【農林水産省生産局長賞】

平田　憲市郎・平田　志緒梨　　佐賀県唐津市
切花（カーネーション）

平田憲市郎氏は、大学卒業後１年間花き卸売市場に勤務し、花きの流通、価格形成等の仕組みや花商、実需者との交流による消費の立場から見た花き業界について学び、平成１７年に就農した花き農家の三代目である。平田志緒梨氏は、平成２０年に憲市郎氏との結婚を契機に就農し、主に経理、雇用管理、６次化を担当している。

先代までは、「良い品物を作れば売れる（た）」時代であったが、就農に当たり「マーケットが求めるものが価値ある商品」との考えに立ち、高品質であることは当たり前、その上で市場のリサーチ、顧客との対話を徹底して行い、自園カーネーションの価格を引き出すことに心血をそそいでおり、外に向かっては「平田花園」の名称で展開している。

その結果、これまで２市場であった出荷先は、北海道から沖縄までの１２市場に拡大し、販売単価も年々上昇し現在に至っている。

栽培技術について特に工夫している点としては、土壌改良材はピートモスを中心に、ＣＥＣ調整にゼオライトを用い土づくりを行っている。年数回土壌分析を行い、不足分だけ化学肥料のみで補っている。病害虫防除対策は、早期発見による的確な時期、薬剤選択を行い病害虫の発生、拡大を防いでいる。

孫芽除去等の調整作業を生育中に徹底して行い、花を十分開かせてから収穫することで、品種が本来持っている切り花ボリュームを引き出しているほか、自園独自の染色技術を開発し、他では見られないオンリーワン商品を提供したり、オリジナル品種の育成・販売を行っている。

労働軽減については、栽培時に細かく手を入れることで、品質を落とさず、出荷調整時間を大幅に短縮したほか、調整もシンプル化、マニュアル化して誰でも出来る作業にし、規模拡大に向けて準備をしている。環境保全の部面では、土壌分析に基づく施肥管理により土壌中の塩類集積も少なく、連作障害も全くない。病害虫の発生状況や生育状況を小まめに観察し、薬剤の効果・効能を最大限発揮させるよう適期防除に努めている。更に、土壌消毒は、労力や時間がかかるが蒸気消毒である。

平田花園の特記事項としては、自園産カーネーションを原材料とした装飾加工品「ジュエルフラワー」を開発、商品化（商品名：瞬美―ＳＨＵＮＢＩ－）し平成２６年から販売を開始している。この６次化の分野については、主にアイディアを発案した妻志緒梨氏が担当している。同花園は、平成２８年には法人化を行うことにしているが、既に憲市郎夫妻と両親との間で家族経営協定が締結されており円滑に移行されるものと考えられる。憲市郎氏は、県農業青年クラブ連絡協議会長、青年農業士等を歴任、若手生産者のリーダー的存在である。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部　　岩手県奥州市
代表者　鈴木　喜一
切花（リンドウ）

岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部（以下、「専門部」と言う。）は、岩手ふるさと農協園芸部の中にあるりんご専門部、小菊専門部、アスパラガス専門部等１２部門の一つで、事務局は、岩手ふるさと農業協同組合営農経済グループ園芸課に置かれている。

地域のリンドウ生産は、昭和50年に旧衣川村の３戸の農家が稲作の転作品目として導入したのが最初で、組織的には、昭和５２年に衣川農協りんどう部会を設立、平成１０年の農協広域合併を契機に１１年から岩手ふるさと農協園芸部花卉専門部となり、平成２４年６月、品目別の専門性を高めた部会組織とするため現在の名称の専門部となった。

現在、９０戸が加入しオリジナル品種の開発・普及を図り、その販売促進により高単価で取引され、八幡平市、西和賀町に次ぐ県内第３位の産地となって岩手リンドウの責任産地として重要な役割を果たしている。

品種開発の体制としては、平成12年に衣川りんどう振興協議会を設立し、それまで個人的に取り組んできた品種の開発を市、ＪＡ、専門部会員による協議会で実施することにした。平成14年には、「衣川スカーレット」と「夕日のころもがわ」の２品種が種苗登録され、現在では、１２品種が登録され全出荷量の約３割を占めるに至っている。当初は、ピンク系品種を中心に開発を進め他産地との差別化に取り組んだが、その後、実需者や消費者のニーズに対応し、青系や白系品種の開発にも取り組んでいる。

当地域は、県内産地の中でも比較的冬季温暖な気象条件であることからハウスを利用した促成または半促成栽培による早期出荷をいち早く取り組んでいる。

また、リンドウは、採花までに２年を要し、連作が出来ない作物である。そのため、コンテナにリンドウを定植して露地で１年間株を養成し、株更新時にこれらコンテナを入れ替えることによって、ハウスを移設することなく連続して採花することを可能にしている。

労働軽減では、通路に抑草シートを設置し除草労力の軽減を図り、ＪＡのグリーンヘルパー制度を活用して雇用労力の確保を図っている。

また、良質な苗を供給するため、ＪＡ育苗センターが一括して育苗を担っており、これによって、部会員の細かいニーズに対応した苗供給が可能となり、種苗費の低減にもつながっている。専門部会の活動を踏まえ、共選体制や技術の高位平準化が図られ、ブランド力も高まり、高品質・安定生産が実現し、部会員の経営は安定している。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

有田　隆則　　広島県東広島市
花壇苗（パンジー、ビオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ）

有田隆則氏は、昭和５０年に就農。就農当時は、米、ミカン、バレイショ、葉タバコの栽培を行っていた。ある時、ＪＡから苗の注文を受け、余った苗を市場に出荷した。その時、花苗の魅力に心がときめいた。

以後、規模拡大を進めながら臨時パートから常用パート、それから正社員雇用へと発展し（常雇い２１名）、また、福利厚生にも力を入れ社員定着のための組織作りをし有限会社有田園芸農場としている。また、生産体制としては、生産量や出荷量を増やす度に土地、建物、フォークリフト、４ｔトラック等を購入し物流の効率化を図ってきた。

栽培技術について特に工夫している点は、（1）必要最低限の暖房費用としている、（2）灌水時、水と液肥をワンタッチで変換できるようにした、（3）効率化とコスト低減のためオリジナル培養土をメーカーに委託作成、（4）全国にないメーカーのＰＢ商品の試作、（5）夏場の育苗のため細霧冷房の一部導入、（6）遮光資材の利用、（7）毎月の棚卸しによる資産・在庫管理をして不良在庫を軽減している。

出荷・販売に当たっては、各種交流会、研修会、展示会に参加して消費者ニーズの把握に努めるとともに、量販店、メーカーとの契約栽培の拡大しつつ、小売店との業務提携を模索中であり、パワーゲート付のトラックに台車輸送プラットホーム付の集荷センターを設置し、生産管理ソフトの導入で受発注から売上までを一括集計できるようにしている。

地域社会活動としては、同市安芸津町のフェスティバルでは花苗の無償配布や地元小学校へ年２回花苗の提供を行い花いっぱい運動を進めている。また、道路沿いの草刈り、ゴミ清掃なども積極的に行っている。広島県では、農地中間管理機構の評議委員を務め、指導農業士として農業、青年の支援活動、専門技術学校、農業高校の評議員や食品残渣→堆肥化→農産物生産→販売の研究委員などを歴任している。また、英国王立園芸協会ハンギングバスケットマスター、初級園芸福祉士、グリーンアドバイザー、広島県植物公園ボランティアガイドの資格で、寄せ植え教室、花つくり教室、美味しい野菜つくり教室等の講師を務めている。全国では、日本野菜育苗協会の会長を６年間務め、今期から理事に就任しており活動の範囲は幅広い。なお、日本野菜育苗協会は、野菜苗、花苗を生産する全国組織で、同協会では次世代の会を結成しており、現在、有田氏の長男（昌弘氏）が会長を務め、国内外の視察やセミナーを開催している。

今後は、ベンチ栽培の増設、品目の多様化と希少価値品目の生産、契約生産の拡大、多様化人材の育成、ヒートポンプの導入や暖房機の改良等を検討している。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

お花屋さん百花園有限会社　代表　渡邊　徳昭　長崎県雲仙市
切花（キク）

渡邊徳昭氏は、昭和４４年の就農と同時にトンネル栽培のメロンと露地ミカンで経営を開始。昭和５０年には、露地ミカンの出荷時期の分散と収益の向上を目的として一部をハウスミカンに転換し、最終的には１ｈａまで面積を拡大した。その後、ミカンの収益率の低下や台風による被害を受けたことで、キクへと転換を決意し、平成６年にキク栽培を開始。以降、ハウスミカンを縮小し、キクの作付けを拡大、平成１４年のハウスミカン収穫を最後に完全にキク専業体制に切り替えた。

平成１８年には、有限会社「お花屋さん百花園」を３戸の農業者で設立し、台風に強く周年にわたる計画出荷が可能となる大規模フェンロー型ハウスの導入とともに、優良品種の導入やＬＥＤなど他産地に先駆けて先端技術の導入を図り、県内でも有数の大規模花き農家となっている。

栽培技術については、施設の内部に作業効率を高めるコンクリート製中通路がある大規模フェンロー型ハウスは、平成１７年の建設当時、県内１例目であり、以後、高品質化、省力化、作業の効率化等の面から県内生産者へ広まった。

高品質化の取り組みとしては、ネットマス目（１０ｃｍ×８目）に中２条抜きをすることで、受光率を高め、上位規格品の割合を向上させ単価向上を図っている。また、土作りを心掛け、根の張りやすい環境を整えるとともに、水管理も時間帯や生育時期、天気によって灌水方法、灌水量を変えることで根量を増やし、収穫前の灌水量を控えることにより日持ちの良いキク作りを実践している。品種も低温開花性品種を導入しており、変温管理により慣行栽培と比べ約１５～２０％の燃油コスト削減につながっている。

キクの出荷・販売に当たっては、規格ごとの品質の揃いを重視した３段階選別の取り組みを行っており、①ほ場でまず階級（秀・優・良）の選別、②選花機にかける前に再度選別、花弁の開きなどの確認、③箱の中の３日後の草姿を考慮し、箱詰めしながら最終的な品質チェックを行う。

環境保全や省エネルギーについては、電照用光源変更による省エネ化とＬＥＤ電球導入による生育促進、良質堆肥による土作りと灌水同時施肥システムによる化学肥料低減への取り組み、防虫ネットや紫外線カットフイルムの導入等各種耕種的防除技術の活用による減化学肥料への取り組みを行っている。

渡邊氏は、長崎県農業士会及び島原半島農業士会の会長などの役職を歴任した。多くの人と交流することで学ぶことがあるとの経験から、会員に呼びかけて全国や県の農業士会の会議に参加し、青年農業者育成指導能力の向上を図った。これらにより、現在、県の青年農業者の６割が島原半島に集中している。

（参考資料１）

花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール受賞者一覧

平成28年3月24日

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
25回（27年度）	農林水産大臣賞	埼玉	萩原　幸一	ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、アップルゴーヤ、縄文ネギ（鉢物・花壇苗）	
25回（27年度）	農林水産大臣賞	愛知	近藤　晴義	ガーデンバラ苗、ミニツルバラ（鉢物・花苗）	
25回（27年度）	生産局長賞	福島	佐藤　幸一 佐藤　朝子	シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネーション(鉢物)	
25回（27年度）	生産局長賞	佐賀	平田　憲市郎 平田　志緒梨	カーネーション（切花）	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部 （代表者　鈴木　喜一）	リンドウ（切花）	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	広島	有田　隆則	パンジー、ビオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ(花壇苗)	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	お花屋さん百花園有限会社 代表　渡邊　徳昭	キク（切花）	
24回（26年度）	農林水産大臣賞	岩手	新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会 （代表者　高村敏彦）	リンドウ（切花・鉢物）	第54回農林水産祭 天皇杯受賞
24回（26年度）	農林水産大臣賞	埼玉	朝見 良治	ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリス、ラナンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチア、ニチニチソウ、クロサンドラ、カラー、プリムラ等（鉢物・苗物）	
24回（26年度）	生産局長賞	愛知	梶　　孝光	コギク(切花)	
24回（26年度）	生産局長賞	福岡	豊田　　武 豊田 千代子	キク、トルコギキョウ、アスター等(切花)	
24回（26年度）	生産局長賞	長崎	前田 耕一 前田 綾子	シキミ等（切葉）	
24回（26年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	島部 勝昌	エラチオールベゴニア(鉢物)	
23回（25年度）	農林水産大臣賞	山形	大築 義雅 大築 実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗（鉢物・苗物）	
23回（25年度）	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ （代表者　関和勝宏）	ユリ（切花）	
23回（25年度）	生産局長賞	岩手	坂戸 明夫 坂戸 チヨ	リンドウ（切花）	
23回（25年度）	生産局長賞	愛知	荒木 祥充	アンスリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア，シダ類等（鉢物）	
23回（25年度）	生産局長賞	長崎	吉塚 正弘　吉塚 友子	カーネーション、ガーベラ(切花)	
23回（25年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	高橋 明利	ガーベラ(切花)	
23回（25年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 （代表者　三浦慶昭）	コギク、リンギク(切花)	
22回（24年度）	農林水産大臣賞	福島	有限会社矢祭園芸 代表金澤 善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマラコイデス等（鉢物・苗物）	
22回（24年度）	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 （取締役会長　斎藤豊治） （代表取締役社長　斎藤健治）	フィロデンドロン、フィットニア、プミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペペロミア等（鉢物）	
22回（24年度）	生産局長賞	福岡	花田 哲治 花田 泰子	バラ、ユリ（切花）	
22回（24年度）	生産局長賞	沖縄	新垣　進	コギク（切花）	
22回（24年度）	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場 フラワー部会	ストック、切花ハボタン、フリージア（切花）	
22回（24年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	坂井 浩一郎	キク（切花）	
22回（24年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部	コギク（切花）	
21回（23年度）	農林水産大臣賞	佐賀	小柳 誠五　小柳 一枝	ユリ（切花）	
21回（23年度）	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ケ台ガーデン （代表取締役　窪田敬一）	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等（鉢物）	
21回（23年度）	生産局長賞	愛知	稲垣 長太郎	カーネーション（切花）	
21回（23年度）	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 （代表取締役　金原由紀男）	キク（切花）	
21回（23年度）	生産局長賞	熊本	坂崎 改輝 坂崎 久子	シュッコンカスミソウ（切花）	
21回（23年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	埼玉	吉澤 明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム等（鉢物）	
21回（23年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福岡	牛島 博文	ガーベラ(切花)	
21回（23年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合　菊部会 （代表者　野谷智樹）	キク（切花）	
20回（22年度）	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等（鉢物）	
20回（22年度）	生産局長賞	岐阜	河合　　修	アルストロメリア（切花）	
20回（22年度）	生産局長賞	福岡	安田　克徳 安田　節子	サカキ、花桃、ニュウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等（花木・枝物類）	
20回（22年度）	生産局長賞	長崎	山口　政則 山口　和代	カーネーション（切花）	
20回（22年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	愛知	伊藤　正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア（鉢物洋らん類）	

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
19回（21年度）	農林水産大臣賞	埼玉	塩原　茂夫	アジサイ、ポインセチア（鉢物）	
19回（21年度）	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長　小久保恭一	リンギク（切花）	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回（21年度）	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ（切花）	
19回（21年度）	生産局長賞	愛知	櫛田 倉司	リンギク（切花）	
19回（21年度）	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等（球根切花）	
18回（20年度）	農林水産大臣賞	愛知	小松　英雄	アンスリーム（鉢物）	
18回（20年度）	農林水産大臣賞	福岡	浜野　重登 浜野　明美	バラ（切花）	
18回（20年度）	生産局長賞	埼玉	安藤　　貢	アガパンサス等（苗物）	
18回（20年度）	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等（鉢物）	
18回（20年度）	生産局長賞	大阪	稲治　義彦	シャクヤク等（露地花き）	
18回（20年度）	生産局長賞	長崎	柴田　定實 柴田　富子	キク（切花）	
18回（20年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	石井　克明	バラ（切花）	
17回（19年度）	農林水産大臣賞	埼玉	黒臼　秀之	コチョウラン（鉢物）	
17回（19年度）	農林水産大臣賞	岐阜	吉田　正博	ガーベラ等（鉢物）	
17回（19年度）	生産局長賞	千葉	平野　圭祐	アンスリウム（切花）	
17回（19年度）	生産局長賞	神奈川	加藤　　悟	シンピジウム（鉢物）	
17回（19年度）	生産局長賞	愛知	平野　和美 平野　照美	ポインセチア等（鉢物）	
17回（19年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	石橋　正基	カーネーション（切花）	
16回（18年度）	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合　花卉部 (部長)飯高　重雄	サンダーソニア等（切花）	
16回（18年度）	農林水産大臣賞	福岡	空閑　善実 空閑　桂子	パンジー等（苗物）	
16回（18年度）	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル 観葉生産組合 (代表者　福留　健一)	オーガスタ等（観葉植物）	
16回（18年度）	生産局長賞	愛知	伊藤　勝久	シクラメン等（鉢物）	
16回（18年度）	生産局長賞	長崎	立石　俊一	バラ（切花）	
16回（18年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	澤瀬　一男 澤瀬　ロシタ	コギク等（切花）	
16回（18年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	樋口　喜善	パンジー等（苗物）	
16回（18年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	真子　徳幸	キク（切花）	
15回（17年度）	農林水産大臣賞	埼玉	田島　　嶽	ガーデンシクラメン（苗物）	
15回（17年度）	生産局長賞	群馬	小倉　文雄	シクラメン等（鉢物）	
15回（17年度）	生産局長賞	愛知	内藤　完次	バラ（切花）	
15回（17年度）	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等（切花）	
15回（17年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	高木　兼雄	スパティヒィラム（鉢物）	
15回（17年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	沖縄	玉城　昌伸	キク（切花）	
15回（17年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	沖縄	蔵下　良彦	キク（切花）	
14回（16年度）	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会	フェニックス等（鉢物）	
14回（16年度）	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣　正俊	オステオスペルマム（苗物）	
14回（16年度）	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)楢山 恒雄	バラ（切花）	
14回（16年度）	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鵜飼　敏之	パンジー等（苗物）	
14回（16年度）	生産局長賞	福岡	高橋　三千年 高橋　節子	バラ（切花）	
14回（16年度）	生産局長賞	鹿児島	小村　幸一	パキラ等（観葉植物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	神藤　正和	ハボタン等（苗物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	谷嵜　隆雄	ハナモモ等（切り枝花木）	
14回（16年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	徳島	尾崎　進一郎	シンピジウム（鉢物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	松永　宏隆	ユリ（切花）	
14回（16年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク（切花）	

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
13回（15年度）	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本　昇　岸本ときこ	ハイビスカス等（鉢物）	
13回（15年度）	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原　武博	ジャスミン等（切花）	
13回（15年度）	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木　和彦　白木ふさ子	レッドロビン等 （洋蘭・観葉植物）	
13回（15年度）	生産局長賞	佐賀	宮崎　憲治	スイトピー等（切花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花弁出荷組合 益田支部（代表者)中川　剛	キク等（切花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田　則明	カーネーション等（切花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方　久幸	ガーベラ(切花)く	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク（切花）	
12回（14年度）	農林水産大臣賞	愛知	石井　義明	アルストロメリア（切花）	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回（14年度）	生産局長賞	埼玉	成澤　勝司	マリーゴールド（苗物）	
12回（14年度）	生産局長賞	鹿児島	柴嵜　喜好	アイビー等（切花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川　正樹 石川　結花	ユリ（切花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端　芳彦 川端　葉子	ユリ等（切花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	稲田　良弘	コチョウラン（鉢物）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西　幸彦	マツ（盆栽）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永　健史	コチョウラン（切花・鉢物）	
11回（13年度）	農林水産大臣賞	埼玉	小林　滋幸	カランコエ（（鉢物）	
11回（13年度）	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク（切花）	
11回（13年度）	生産局長賞	埼玉	田中　　勲	シクラメン等（鉢物）	
11回（13年度）	生産局長賞	岐阜	河野　鉄博 河野　常子	ラナンキュラス等（切花）	
11回（13年度）	生産局長賞	愛知	林　　富造 林　　房子	シンピジウム（鉢物）	
11回（13年度）	生産局長賞	佐賀	菖蒲　正行	トルコギキョウ等（切花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻　栄治	キク（切花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田　律恵	レースフラワー等（切花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部　雅志	シンピジウム（鉢物）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森　　崇	バラ（切花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高杢　義邦	ユリ等（切花）	
10回（12年度）	農林水産大臣賞	岐阜	大西　　隆	ミニバラ（鉢物）	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回（12年度）	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉　貞吉	テッポユリ等（切花）	
10回（12年度）	生産局長賞	群馬	林　　康夫	シクラメン等（鉢物）	
10回（12年度）	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション（切花）	
10回（12年度）	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ（切花）	
10回（12年度）	生産局長賞	沖縄	玉城　哲弘	キク（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤　幸子	リンドウ等（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等（鉢物）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈　義就	キク（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇　　孝	キク（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本　傳夫	キク（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園　英治	キク（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭　富春	カーネーション等（切花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田　良成	バラ（切花）	
9回（11年度）	農林水産大臣賞	埼　玉	奥富　良雄	チューリップ等（苗物）	
9回（11年度）	農林水産大臣賞	愛　知	角田　隆幸	ハボタン等（苗物）	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回（11年度）	農産園芸局長賞	宮　城	宮城県南三陸農業協同組合　花き部会	キク（切花）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	山　梨	渡辺　喜市	サンダーソニア等（切花）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	滋　賀	小杉　長男	シクラメン等（鉢物）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	沖　縄	大城　清利	キク（切花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩　手	菅原　武男	リンドウ（切花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	栃　木	田代　正行	カーネーション（切花）	

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	埼　玉	木村　　実	バラ（切花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長　野	中村　元夫	ディフィニウム等（切花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉川　公彦	キク等（花苗）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳　島	朝海　常祐	キク（切花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福　岡	高尾　保徳	ゴールドクレスト等（花木）	
9回（11年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長　崎	小嶺　敏博	コウチョウラン等（鉢物）	
8回（10年度）	農林水産大臣賞	岐　阜	間宮　敏昭	ハイビスカス等（鉢物）	
8回（10年度）	農林水産大臣賞	福　岡	井上　茂之	トルコギキョウ等（切花）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	戸谷　武雄	シュッコンアスター（切花）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	静　岡	服部　一夫	クルクマ等（鉢物）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	京　都	清水　幸雄	ケンガイキク（鉢物）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	長　崎	鹿山　雅勝	カーネーション等（切花）	
8回（10年度）	(財)日本花普及センター会長賞	新　潟	渡邉　和芳	ユリ（切花）	
8回（10年度）	(財)日本花普及センター会長賞	三　重	松尾　廣文	シクラメン等（鉢物）	
8回（10年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉本　利郎	バラ（切花）	
7回（9年度）	農林水産大臣賞	宮　城	平間　久義	ハーブ等（苗物）	
7回（9年度）	農林水産大臣賞	静　岡	とぴあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ（切花）	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回（9年度）	農産園芸局長賞	青　森	竹ノ原幸悦	カーネーション等（切花）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	立石　勝義	ポインセチア等（鉢物）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	福　岡	南嶋精二朗	ベゴニア等（苗物）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	長　崎	本田　敏秀	カーネーション等（切花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	フローラぎふOKI	カランコエ（鉢物）	
7回（9年度）	(財)日本花普及センター会長賞	京　都	月本　雅治	バラ（切花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及センター会長賞	兵　庫	中岡　邦康	カーネーション（切花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及センター会長賞	大　分	市川　一清	スイトピー等（切花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及センター会長賞	沖　縄	渡久山　稔	キク（切花）	
6回（8年度）	農林水産大臣賞	栃　木	菱沼　軍次	シクラメン等（鉢物）	
6回（8年度）	農林水産大臣賞	静　岡	大庭　孝史	パキラ等（観葉植物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	新　　博之	カランコエ等（鉢物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	京　都	寺内　一郎	パンジー等（苗物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	福　岡	大隈　博幸	バラ等（切花）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	沖　縄	外間　勝義	キク等（切花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	宮　城	斉藤　達義	シクラメン等（鉢物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	群　馬	小嶋　　宏	バラ（切花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	安保　幹太	シンピジウム等（鉢物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	堀田　泰規	プリムラ等（苗物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	広岡　　稔	アイリス等（切花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	小池　龍善	キク等（切花）	
5回（7年度）	農林水産大臣賞	岐阜	福田　　誠	セントポーリア等（苗物）	
5回（7年度）	農林水産大臣賞	福岡	波佐間　廣美	ディフェバキア等（観葉植物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	群馬	萩原　久雄	シクラメン等（鉢物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	埼玉	千野　純一	インパチェンス等（鉢物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 （代表）時松　　謙	バラ等（切花）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	沖縄	宮平　憲勇	キク（切花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島　　徹	シクラメン等（鉢物）	
5回（7年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本　達夫	バラ（切花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野　伸太郎	ストック（切花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田　　護	ベニカナメモチ（植木）	
5回（7年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田　義雄	キク（切花）	

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
4回（6年度）	農林水産大臣賞	宮城	渡辺　俊	シクラメン等（鉢物）	
4回（6年度）	農林水産大臣賞	埼玉	金子　正	カラジューム等（鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	群馬	中山　忠義	洋ラン（切花・鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	福岡	和佐野　喜代太	コチョウラン等（鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	佐賀	中江　広域	キク（切花）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	大分	志賀　智貴	ユリ（切花）	
4回（6年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村　勇一	プラグ苗等（苗物）	
4回（6年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林　一郎	ポインセチア等（鉢物）	
4回（6年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎　勝治	ダリア等（切花・球根生産）	
4回（6年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田　一弘	スイトピー等（切花）	
4回（6年度）	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田　正明	カーネーション等（切花）	
3回（5年度）	農林水産大臣賞	茨城	鈴木　隆	ホウズキ等（鉢物）	
3回（5年度）	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷　英雄	キク等（切花）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	秋田	三浦　康之	トルコギキョウ等（切花）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	群馬	小内　敬一	アジサイ等（鉢物）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	埼玉	矢作　文夫	カトレア等（鉢物）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	高知	山崎　廣美	ユリ等（切花）	
3回（5年度）	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島　衛樹	ハナショウブ等（切花）	
3回（5年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川　喜一	シクラメン等（鉢物）	
3回（5年度）	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野　高人	（花木）	
3回（5年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代　恒夫	バラ等（切花）	
2回（4年度）	農林水産大臣賞	栃木	渡辺　武雄	コチョウラン等（鉢物）	
2回（4年度）	農林水産大臣賞	静岡	渡辺　偉	クレマチス等（苗物）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	岩手	畠山　正徳	リンドウ等（切花）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	群馬	大沢　憲一	バラ（切花）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	東京	浅沼　一治	フェニックス等（鉢物）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等（切花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田　静吾	バラ（切花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内　栄一	バラ（切花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村　喜和	キク等（切花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村　隆明	インパチェンス等（鉢物）	
2回（4年度）	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原　博文	キク（切花）	
1回（3年度）	農林水産大臣賞	岩手	猿子　恵久	アルストロメリア等（切花）	
1回（3年度）	農林水産大臣賞	埼玉	本多　忠夫	シクラメン等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	栃木	菱沼　軍次	シクラメン等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	群馬	阪本　正次	アジサイ等（鉢物）	

（参考資料２）

第２５回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール実施要領

１．目　的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

２．開催団体

（１）主　催　一般財団法人日本花普及センター
（２）後　援　農林水産省
（３）協　賛　一般社団法人日本花き生産協会
　　一般社団法人日本花き卸売市場協会
　　一般社団法人全国農業改良普及支援協会

３．出品資格

露地花きにあっては栽培面積が１ha 以上、施設花きにあっては栽培面積が５０ａ以上の花き生産を主とする農業者等であって、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

４．出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会－花き技術・経営コンクール応募用紙（別添１、２）」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

５．審査方法

（１）予備審査

一般財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

（２）本審査

付属資料２の審査委員は、付属資料１の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

６．表　彰

（１）特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（２点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（４点）、一般財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。
（２）農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

（3）次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね５割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、一般財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

７．事　務　局

標記コンクールを実施するため、事務局を一般財団法人日本花普及センター内に設置する。

８．開催日程

（1）出品募集期間　　平成２７年８月２５日（火）～１１月３０日（月）

（2）予備審査　　平成２７年１２月

（3）本審査　　平成２８年1月１４日（木）

一般財団法人日本花普及センター　５階会議室

（4）現地調査　　平成２８年２月８日（月）　　埼玉県　萩原　幸一

平成２８年２月１９日（金）　愛知県　近藤　晴義

（5）表彰式　　平成２８年３月２４日（木）１３：３０～

学士会館（東京都千代田区神田錦町 3-28）

（付属資料１）

花き技術・経営コンクール審査基準

1　立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
2　経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
3　消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
4　栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
5　生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
6　土地利用及び労働力利用が合理的であること
7　生産性が高く所得が水準以上と認められること
8　労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
9　環境保全に対する工夫や配慮が見られること
10　国際化対応を考慮した経営がなされていること

（付属資料２）

氏　名	所 属 ・ 役 職
腰岡政二	日本大学生物資源科学部　教授
土井元章	京都大学大学院　教授
河野恵伸	国立研究開発法人農業･食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター　食農連携プロジェクト リーダー
長村智司	一般社団法人フラワーソサイエティ　会長
田島鉄弥	一般社団法人日本花き生産協会　顧問
長岡　求	(株)フラワーオークションジャパン　取締役　花の広報室長

第２５回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成２８年３月発行

編集・発行　一般財団法人日本花普及センター
〒103-0004　東京都中央区東日本橋３－６－１７　山一ビル４階
TEL：０３－３６６４－８７３９　　FAX：０３－３６６４－８７４３
e-mail：jfpc@jfpc.or.jp　　URL：http://www.jfpc.or.jp

いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン